

No. 979

# 青年の船

10月13日、内閣総理大臣官邸ホールで、昭和47年度「青年の船」の結団式が行なわれました。船上での研修および規律ある団体生活を通じて心身を鍛練すると共に、各国青年との親善と相互理解につとめ、国際的視野の広い青年の育成を目的として昭和42年から実施された「青年の船」は今年で6回目、着実に成果をあげているようです。各都道府県から選び抜かれた乗船員347人は出航に先立ち、16日、晴見埠頭で行なわれた出航式で本名総理府総務長官の激励を受けたあと、家族に見送られて元気に「青年の船」日本丸に乗り込みました。

これから2カ月間、東南アジア、およびオセアニアで広く日本の文化を紹介し、日本の青年として重要な役割を果たしてくることでしよう。

# 汽笛一声新橋を

陸蒸気のはじめて新橋・横浜の間を走ってから100年。  
鉄道100年記念日の10月14日、当時を再現してSLが走った。機関士、車掌も昔の服装、客車の横腹にも3等を表す赤帯がつけられ、行先を示すプレートも右書きと大変なこりよう。  
この日の乗客は、77歳以上のお年寄り。明治を再現してC57は、汐留駅を汽笛一声、一路横浜に向け出発した。当時の運賃は横浜まで1両2朱。今のお金が約700円とか。  
大東京のビル街をSLが走るとあって沿線はマニアでいっぱい。SLの写真を撮るのは命がけ。  
多摩川の六郷土手は線路内にまで人があふれ、電車までとうとう止められた。  
煙を吐いて汽笛を鳴らしてSLは通り過ぎる。  
往時のなつかしさに老人は手を振り、かんがいにふける。  
35年間、走りつづけたSLC57も、今日の晴れ姿を最後に姿を消すという。  
1時間かかって横浜に着いたSLを待っていたのはここでもマニア。  
\*汽笛一声新橋を……………  
時代は移り今や高速時代。去りゆくものへの愛着か、老人は感がいふけり、若者はSLに群らがる明治の再現でした。